

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 245

事務事業名	障害者団体活動支援事業
-------	-------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	福祉保健部		
課名	障がい福祉課		
課長名	上新 康雄	内線	89-300
担当者名	益田 真功	内線	89-304

基本目標		健康でいきいきと暮らせるまち
政策	020302	障がい者が暮らしやすいまちづくり
施策		障がい者の社会参加の促進
関連施策		

事業類型	5	負担金・補助金事業
個別計画	障がい者基本計画、障がい福祉計画	
重点事業		

会計	01 一般会計		
款	3	民生費	
項	1	社会福祉費	
目	1	社会福祉総務費	
事業コード	060601	障害者団体活動支援事業	

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	各障害者団体(身体障害者団体連合会、手をつなぐ育成会、精神障害者家族会等)		
意図 対象をどのような状態にしたいか	各障害者団体の活動を支援することで、障害者の生きがいがいづくり等、障害者の福祉の充実を図る。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	県内のデパート等でのバザール開催事業を支援するなど、各障害者団体の活動に対して補助する。		
事業期間	昭和 38 年度 ~ 平成 年度	実施方法	補助
根拠法令、要綱等	大村市社会福祉事業費補助金交付要綱、大村市障害者福祉振興事業費補助金交付要綱、大村市精神障害者家族会運営補助金交付要綱		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① バザール実施個所数(移動店・常設店)	計画値	40	30	31	33	
		実績値	32	33	33		
		達成度	%	80.0%	110.0%	106.5%	
活動指標	② 長崎県障害者スポーツ大会	計画値	1	1	1	1	
		実績値	1	1	1	1	
		達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
成果指標	① バザール参加団体数	計画値	40	40	40	40	
		実績値	40	40	40		
		達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	② 長崎県障害者スポーツ大会参加者数(大村市選手数)	計画値	140	150	150	170	
		実績値	139	149	168		
		達成度	%	99.3%	99.3%	112.0%	

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	564	564	531	631	587	587	587	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	564	564	531	631	587	587	587	
② 人件費(千円)	636	453	230	436	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.08	0.06	0.03	0.06	障害者団体への活動支援補助	障害者団体への活動支援補助	障害者団体への活動支援補助	
時間外勤務(時間)	0	0	9	0				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	1,200	1,017	761	1,067				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	市内3障害者団体、街かどのふれあいバザール支援事業及び補助を行った。長崎心理療育キャンプ事業は平成27年度補助申請がなかったため補助していない。 H28年度は大村市身体障害者団体連合会50周年の記念事業実施のため1,000千円増となっている。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	各障害者団体の経済基盤が脆弱(障害者とその家族及び支援者に依拠している)であることから、本補助事業の必要性は高い。						
妥当性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	各障害者団体の活動に対し、補助事業を通じて明確な支援を行うことは、福祉の推進を図る市の姿勢として妥当である。						
有効性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	本事業は、各障害者団体の活動推進のために有効に活用されており、事業成果は高い。						
有効性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	施策の方向性とも一致しており、施策における事業効果は大きい。						
効率性	【コスト】		削減の余地なし	削減の余地あり		該当なし	
効率性	【負担割合】		見直しの余地なし	見直しの余地あり		該当なし	
	各障害者団体への補助は、各団体の経済基盤が脆弱であること、その他の事業に対する補助金はきわめて少額であることから見直すことは難しい。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	補助金については各障害者団体の加入者数の増減及び活動内容を把握しながら、補助金が有効活用されるよう見守る。
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。